

## 専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

### 「最後の卒業生としての思い」

20 回生の三ツ矢華奈子です。

私は専攻科でたくさんの思い出を作りました。初めて学ぶことが多く、どれも新鮮で毎日楽しかったです。学ぶといっても勉強だけではなく、人との繋がりやコミュニケーションなども学びました。専攻科では特に人に関わることを学べたと思います。それは、20年の歴史があるからこそ多くの人と関わる機会があったからだと感じています。

また専攻科は他の学科とは雰囲気少しゆったりとしていて、学び場でもあり家という感覚もありました。一緒に勉強をした5人は本当に家族のようにも思えました。だからこそ、畑で野菜を作ったり、課外学習で船に乗ったりと座学以外の授業がとても楽しかったです。今思うとほんとうに学校を楽しんでいたなぁと感じます。

ただ楽しい学校生活だけではなく、長期の実習が大変だったと思いました。今までは1週間~2週間の実習でしたが、約1ヶ月の実習もあり、できるのか不安になりました。実際、実習ではパット確認や食事介助、就寝介助など今まで体験したことのないことばかりで戸惑いました。大学で演習をしましたが、やはり実際に触れて体験するとそれぞれ違って大変でした。しかし、就職した先輩方を見てとても堂々としていて、楽しそうに接する姿がカッコイイと思いました。なので、大変だと思うばかりではなくそこにやりがいや楽しみをみつけたいと思いました。

最後に私たちが専攻科は閉科となりましたが、1年という短い期間で多くの出会いや学びがありました。そう思うとやはり寂しい、なぜなくなってしまうのかと感じます。だからこそ、福祉の里を通してこれまでの繋がりを大切にできたらいいなと考えています。また就職してまだまだ分からないことがたくさんあるので、先輩方の姿を思い出してこれからも頑張っていこうと思います。

2022年10月

20 回生

三ツ矢華奈子